

2013年度の植物講座回想(その後のツチアケビ)

2014年、年が明けて2013年の話は賞味期限切れですが、2013年の山里の暮らしから「ツチアケビ」の事を思い出しました。故郷の自然の中で一番印象に残るこの「ツチアケビ」は2013年6月に発見し、秋には赤い実をつけていました。記念すべき岐阜便りの50回目は、その後の「ツチアケビ」の報告となりました。



2013年6月、初めてツチアケビを観ました。奇妙な植物で葉はなくいきなり地上からによきによきと伸びており「きのこの化け物」とか最初はびっくりしました。ラン科の植物ですが菌で繁殖し地下の根や茎に寄生する植物とのこと。背丈は50cmぐらいありましたが、秋には赤い実を付け、アケビに似ていることからアケビの名が付いています。



2013年9月のある日、ツチアケビの自生地に行ってきました。植物観察会メンバーが日焼けしないよう黒い網を被せてありその中にありました。赤い実が幾つも垂れ下がっており大きい物は10cmぐらいあり異様な光景です。幹の高さはインターネットで見るところまで成長はしていません。昨年の猛暑が影響したのだと思いますがそれでも幹の高さは70cmぐらいまで育っていました。このツチアケビ生息が新聞に投稿されたために一時期大変な人が押し寄せ踏み荒らされるのではないかと心配していました。そんな騒がしい状況も乗り越えて実をつけ幾つもの実を付け今にも干切れそうな重さをささえている姿に感動しました。2014年にもよきによき生えてくるのを願っています。